

自閉症・情緒障がい特別支援学級の担任になった先生、
特別支援学校で自閉症のある児童生徒の担任になった先生のための
教育課程編成の手引

特性に配慮した 教育課程編成のために

この資料はこのようなねらいで作成しました

北海道では、特別支援教育に対するニーズの高まりなどから、特別支援学級、特別支援学校に在籍する児童生徒数が増加しています。

小・中学校の自閉症・情緒障がい特別支援学級や知的障がい特別支援学校においては、一人一人の教育的ニーズに対応した教育課程を編成し、その中でどのような力を身に付けてきたかを評価しながら、自閉症の特性に応じた教育の在り方について検討することが課題となっています。

本資料は、このような現状の中、どのような指導をするとよいのか、悩みを抱える先生が多くいることから、在籍する児童生徒の実態把握、教育課程の編成の資料として、また、現在の取組に関して見直しをする際の資料として作成しました。



1 自閉症・情緒障がい学級に在籍する子どもたちについて

【障がいの程度】（平成14年5月27日付け 14文科初第291号初等中等教育局長通知）

- 1 自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のもので
- 2 主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、社会生活への適応が困難である程度のもので

自閉症って？



自閉症は、「内気」「人ぎらい」など性格を表すものではありません。自閉症の主な特徴として、人への反応やかかわりの乏しさなど、社会的関係の形成に特有の困難さがみられること、言葉の発達に遅れや問題があること、興味や関心が狭く、特定のものにこだわることのほか、刺激への過敏性や幼児期にみられる多動性などがあります。これらの特徴は、人によって現れ方が違います。

内山登紀夫監修（2006）「ふしぎだね!? 自閉症のおともだち」（ミネルヴァ書房）

2 特別支援学校（知的障がい）に在籍する子どもたちについて

【障がいの程度】（学校教育法施行令第二十二條の三）

- 1 知的発達の遅滞があり、他人との意思疎通が困難で日常生活を営むのに頻繁に援助を必要とする程度のもので
- 2 知的発達の遅滞の程度が前号に掲げる程度に達しないもののうち、社会生活への適応が著しく困難なもので

3 北海道の特別支援学級は・・・

特別支援学級で指導を受ける児童生徒数は、特別支援教育に対するニーズの高まりなどを背景として、近年増加傾向にあります。特に自閉症・情緒障がいや知的障がいを対象とした特別支援学級の在籍者数が増えています。また、在籍する児童生徒の障がいの多様化等に対応することも課題として挙げられています。



このような状況から、自閉症・情緒障がい特別支援学級では、障がいの特性と発達の状態に応じて、指導内容を精選し、指導の充実を図る必要があります。

4 北海道の特別支援学校（知的障がい）は・・・

特別支援教育がスタートして、特別支援学校には複数の障がいのある児童生徒の在籍数の増加、特別支援学校のセンター的機能の取組の推進、教職員の障がいに関する専門性の向上等が課題になっています。



また、複数の障がい種への対応が求められる中、一人一人の教育的ニーズに学校としてどのように対応していくべきか、教育課程の編成、教育内容や方法に関することなどについても課題として挙げられています。

このような中、知的障がい特別支援学校は、一人一人に対応した教育課程を編成し、より自閉症の特性に応じた教育の在り方を検討することが課題となっています。

自閉症の子どもたちへの指導・支援

「学校全体で自閉症教育に取り組むためのチェックリスト（指導内容・方法）」

◆授業づくりを行う

- ・心理検査や発達検査を行い、実態を把握する。
- ・自閉症のある児童生徒の得意なこと、苦手なこと、特徴的な行動等について把握する。
- ・多くをねらおうとせず、指導の目標を絞り、授業計画を立てる。
- ・児童生徒が自ら取り組むことができるように、動機付けを高める工夫をする。



◆指導内容を設定する

- ・自閉症の特性に応じた指導内容が必要であることについて共通理解をもつ。
- ・自立活動や合わせた指導において、社会性やコミュニケーションなど独自の教育内容を設定する。

◆指導体制を組む

- ・個々の実態に応じ、コミュニケーション手段等に絵カードやVOC A等の視覚支援を用いる。
- ・個別の指導を行ったり、課題別の学習グループ編成を行ったりするなど、柔軟な指導体制を編成する。

◆保護者と連携する

- ・保護者のニーズを取り入れた個別の指導計画を作成する。
- ・日常的に保護者と情報交換を行う。
- ・保護者と将来の展望について共有しながら、個別の教育支援計画を作成する。
- ・学校で取り組んだことが、家庭でもできるように、保護者と共同的な取組を行う。

「自閉症教育実践マスターブック」独立行政法人国立特別支援教育総合研究所編著参考

自閉症の特性に配慮するために学校でできること

「学校全体で自閉症教育に取り組むためのチェックリスト（学校マネジメント）」

☆教育課程を工夫する

- ・全校の教職員が自閉症の障がい特性を理解する。
- ・一週間の日課の流れを分かりやすく工夫する。
- ・学校経営計画等に自閉症の特性に応じた指導内容や教室環境等について重点課題として挙げる。
- ・自閉症の特性に配慮した指導を、学年間、学部間で一貫させる。

☆指導環境を整える

- ・児童生徒が落ち着いて過ごせる場所を設けるなど、学校環境を工夫する。
- ・授業や集会などで、積極的に視覚支援を活用する。
- ・教職員が授業準備や打合せを行う時間も、指導環境を整える時間として設定する。
- ・児童生徒が学びやすい環境整備について、常に改善・充実を図る組織体制をつくる。

☆校内研修を実施する

- ・自閉症の特性について、校内研修を行う。
- ・自閉症教育に関する事例検討会を行う。
- ・子ども一人一人が「分かる授業づくり」などをテーマに授業研究を行う。

☆関係機関と連携をする

- ・個別の教育支援計画を作成し、活用する。
- ・自閉症教育に関して、保護者や関係機関に向けて情報提供を行う。
- ・必要に応じて関係機関に相談・支援を依頼することができる環境づくりに努める。



「自閉症教育実践マスターブック」独立行政法人国立特別支援教育総合研究所編著参考

教室や学校の環境づくり

北海道札幌養護学校 (2009) 「自閉症等への対応ガイドライン Ver.4」 より

【構造化について】

構造化とは、生活や学習の場の意味を容易に理解し、自分に何が期待されているのかを分かりやすくするための方法です。

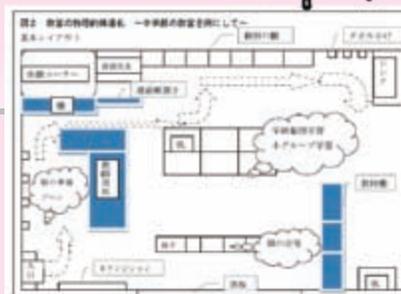
そのために児童生徒が学ぶ教室の環境づくりを、以下の点で振り返ってはいかがでしょうか？



『整理整頓』しよう（物理的構造化）

教室は、「整理整頓」されていますか？

- ★「どこで」「何を」すればよいのかがわかりますか？
- ★同じ道具が同じ場所に片付いていますか？
- ★必要なものだけが見えるようになっていますか？
- ★「給食を食べる場所」のように場所と活動が一致していますか？



(例) 教室の物理的構造化

『分かりやすい』スケジュールを提示してみよう（時間の構造化）

児童生徒のスケジュールは「ひと目で分かる」ようになっていますか？

- ★活動する内容や順番を視覚的に示していますか？
- ★「始め」と「終わり」が明確に示されていますか？
- ★文字、写真、シンボル、イラスト、線画などは、実態に合っていますか？

『分かりやすく』具体で示してみよう（活動の構造化）

児童生徒が主体的に課題に取り組める環境になっていますか？

- ★何をするのか分かるように提示していますか？
- ★どうやってやるのか、方法が分かるように提示していますか？
- ★どうしたら終わりか分かるように提示していますか？
- ★終わったら何をするのか分かるように提示していますか？



『分かりやすい』伝え方をしてみよう（言語環境の構造化）

言語指示は、次のことに注意しましょう。

- ◆分かりやすくシンプルな表現で伝えていますか？
- ◆あいまいではなく、はっきりと伝えていますか？
- ◆抽象的な表現ではなく、具体的に伝えていますか？
- ◆否定的な言葉ではなく、“肯定的に”言い換えて伝えていますか？
- ◆日常的に用いる言葉は統一していますか？



構造化には画一されたものはありません。「個に応じた工夫」です。
学校での構造化は、人から学び、自ら学び、人に尋ね、自分で判断するなどの力を付けるための手段です。
構造化は、その子の成長や発達によって、さらに「個に応じた」ものに変化していきます。

教材・教具の工夫

北海道星置養護学校(2010)「教材・教具集」より

自閉症のある児童生徒は、言葉での働きかけのような聴覚の刺激の理解に苦手さがある場合が多く、学習が成立しづらいことがあります。しかし、視覚的な刺激に関してはとても反応がよく、理解も早いという特性もあります。そのため、見て分かる教材の開発は、自閉症のある児童生徒にとってとても大切です。

個に合わせた教材・教具を工夫し、分かりやすく学習をすすめましょう。

◆ 事例1 ◆

図1は、バースデーケーキの形をしたペグ差しの教材です。

ケーキのスポンジをペグに合わせて重ねたり、円柱、三角柱、四角柱の形をしたペグを型はめしたりする教材です。目指す目標(穴)に向かってものを対応させる力を付けようと作られた教材です。



図1 「バースデーケーキ」

◆ 事例2 ◆

図2は、朝の会の進行ができるよう作成されたものです。会の流れをカードで示し、順番に進行できるようになっています。裏には司会の話す内容が書かれており、司会者は読みながら進めます。一つの活動ごとに1枚ずつめくって進めます。1枚ずつめくることで、一つの活動をしっかり行うことができます。



図2 「朝の会スケジュール」

◆ 事例3 ◆

図3は、色合わせとペグ差しを組み合わせた教材です。ペグとミシンのボビンで作成しています。色に合わせて、ペグとボビンを1対1対応させる学習ができます。



図3 「色合わせペグ」

「支援のためのツール」としての教材・教具

(1) 時間・スケジュールを分かりやすくするために

一日のスケジュールや時間の見通しをもたせるため、子どものニーズに合わせて写真やシンボル、文字を適切に活用しながら示すことは、安心した生活を支えるために必要です。

(例) Time Timer (図4)、タイムエイドなど



図4 「Time Timer」

(2) 認知・コミュニケーションを支えるために

文字が十分理解できない子どもに、デジカメ写真やシンボル、イラストを使用すると効果的です。デジカメで手軽に写真カードを作成することができますが、細部や背景など余計な情報も記録されるので、意図しない部分に注目してしまうこともあります。子どもに合わせて、絵や写真、文字の何を活用するか検討しなければなりません。(例) コミュニケーション支援ボード「わたしの伝えたいこと」、PECS など

(3) VOCA (Voice Output Communication Aids)

音声によるコミュニケーションがうまくとれない人のために、録音させた音声や合成音声でコミュニケーションできるように考えられた機器のことです。多くの種類のVOCAが市販されています。

独立行政法人国立特殊教育総合研究所(2004)「自閉症教育実践ガイドブック」より

特性に応じた指導計画の見直し手順 1

～知的な遅れを伴わないAくん（小学校5年）の場合～
（当該学年の教科学習の内容に準じ、自立活動を取り入れる）



Aくんは、知的な遅れを伴わない小学5年生の児童です。
学習の内容は理解していますが、国語の物語の内容が理解できなかつたり、算数の文章題の意味が分からなかつたりして困っていることが多くみられます。人とかかわりの苦手さから、友達とのトラブルも頻繁にみられるようになりました。
Aくんは、通常の学級に在籍していましたが、4年生の夏休み明けから学校へ行きながらなくなり、保護者と校内の就学指導委員会で相談した結果、5年生から特別支援学級に在籍することにしました。

Aくんの指導計画を次の手順で作成しました

1 学校教育目標を確認する（学校ではどんな子どもを育てようとしているか？）

Aくんの小学校の教育目標は、

- 「すすんで学ぶ子（知）」
- 「仲よく助け合う子（情）」
- 「ねばり強くやりとげる子（意）」
- 「明るく元気な子（体）」

です。

「心豊かに表現できる子ども」
を育成したいと考えています。
（校長先生）



2 Aくんの実態把握をする

- (1) 昨年までの学校生活から（前担任からの引継ぎ）
- (2) 心理検査、発達検査から

学校や専門機関で行った心理検査等の結果を参考にする

- ・WISC-Ⅲの結果（全検査IQ 96、言語性IQ 103、動作性IQ 90）

- (3) 行動観察から

日常場面の中で周囲の人と違う感じ方やとらえ方をしているか、観察する

- ・通常の学級の中で友達がふざけて言った言葉を言葉通りに受け止め、聞き流すことができない。
- ・通常の学級の中がうるさくなると、耳をふさいでしまう。
- ・特別支援学級では自分の考えを話すのが、大勢の中では“何を言ってよいか分からなくなってしまうようだ。”

自閉症の状態は、一人一人異なり、障がいによる学習上又は生活上の困難性、必要な指導内容・方法が異なります。

そのため、個々の児童生徒について、障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などの的確な把握が求められています。

3 指導内容を選択し、組織する

(1) 指導の形態

- ①各教科 ②道徳 ③外国語活動 ④総合的な学習の時間 ⑤特別活動 ⑥自立活動

(2) 指導内容

- ①～⑤は、当該学年の学習指導要領に準ずる。
⑥の自立活動でどんな指導を行うか、年間指導計画を立てる。

(3) 学習の場についての検討

- ①の各教科では、文章を読み取るのに苦手さがみられるため、個別に学習を行うこととした。
国語、算数、社会、自立活動を特別支援学級で行い、他の教科と道徳、外国語活動、総合的な学習の時間は通常の学級で行うことにした。

～Aくん（小学校5年）の指導計画～



【学級のこと】

- ・知的障がい特別支援学級（2名在籍）と自閉症・情緒障がい特別支援学級（高機能自閉症1名、知的障がいを伴う自閉症2名）がある。

【Aくんのこと】

- ・3歳時に高機能自閉症の診断を受けている小学5年生男児。
- ・知的発達はある通常の学級での学習が可能と判断し、小学校入学当時は通常の学級に在籍をしていた。コミュニケーションに課題が多くあり、友達関係をうまく築けず、学級内でのトラブルが多くなっていた。
- ・算数の文章題や物語の読み取りなどが理解できずに、学習に遅れがみられるようになってきた。校内の就学指導委員会における検討の結果、特別支援学級に在籍を移した児童である。

指導の形態と指導体制の工夫

Aくんは、国語、算数、社会では、文章を読んで、情景を思い浮かべたり、文章の意図をくみ取ったりすることに苦手さが顕著にあったので、学習が遅れがちになっていました。

そのため、この3教科については、当該学年の内容を特別支援学級で個別に学習することにしました。通常の学級で行われる教科の内容によっては、Aくんが参加できそうな内容があれば、国語、算数、社会であっても参加をすることにしました。

コミュニケーションがうまくとれないことが原因で、友達とのトラブルが多くみられたAくんは、自立活動を個別に学習することにしました。

	月	火	水	木	金
1	せいかつ (自立活動)	算数	社会	国語	なかま (自立活動)
2	道徳	社会	国語	算数	国語
3	算数	国語	総合的な学習 の時間	外国語活動	算数
4	国語	体育		体育	家庭
5	理科	理科	算数	理科	特別活動
6	音楽	図画工作		社会	

＝交流及び共同学習

通常の学級で交流及び共同学習を実施する際には、「ただ参加しているだけ」にならないよう注意が必要です。その授業は、特別支援学級の教育課程に基づく個別の指導計画の目標を達成するための学習であるという押さえをし、必要に応じて担任が授業で指導・支援を行うなど、通常の学級の担任と連携をとることが大切です。



◆各教科は、当該学年の内容を学習する

Aくんの教科学習は、教科や単元の内容によって効果的な学習ができるように、通常の学級で受ける授業と特別支援学級で受ける授業に分けて考える。また、必要に応じて個別に学習を行うようにする。
※「個別に学習が必要な場合」とは、自閉症の特性により、「登場人物の気持ちが分からない」「文章題のイメージがもてない」など、特別な配慮のもと学習をする必要があるときである。

通常の学級で受ける授業



特別支援学級で受ける授業



◆特別支援学級で「自立活動」の授業を受ける

Aくんが学習をする必要がある「コミュニケーションの能力を高めること」「相手の気持ちを理解すること」について、個別又は小集団で自立活動を行う。

自立活動

Aくんは、知的障がい特別支援学級（2名在籍）の生活単元学習「なかま」「せいかつ」の学習に参加し、友達とのかかわりや自己肯定感の回復、コミュニケーションについて学習をしている。Aくんにとっての「なかま」の時間は、生活単元学習ではなく、自立活動としての取扱いになっている。

特性に応じた指導計画の見直し手順2

～知的な遅れを伴うBさん（小学校4年）の場合～
（下学年の教科の目標・内容に替える）



Bさんは、軽度の知的な遅れを伴う小学4年生の児童です。特別支援学級に在籍しています。小学2年生までは、当該学年の教科の内容に準じて学習に取り組んでいましたが、少しずつ理解が難しくなってきました。

足し算、引き算、かけ算までは、計算問題に取り組むことができましたが、文章題になると混乱する様子が見られたり、割り算がどうしても理解できない、という状態だったため、4年生になってからも2、3年生の内容に丁寧に取り組む必要性がありました。

そこで、国語、算数は、2年生の内容に替えて行うことにしました。

Bさんの指導計画を次の手順で作成しました

1 学校教育目標を確認する（学校ではどんな子どもを育てようとしているか？）

2 Bさんの実態把握をする

(1) 昨年までの学習の取組状況から（前担任からの引継ぎ）

〔Bさんが3年生までに行った学習〕

①国語 小学1年生の教科書（下）までに取り組んだ。

実態：平仮名、片仮名はすべて読み書きできる。漢字を書き間違えることがあるが、1年生（下）で出てくる漢字は読むことができる。教科書をスラスラと読むことができる。

②算数 かけ算や九九を学習中である。6～9の段が未定着である。計算の意味が理解できていない。

実態：文章題になると混乱したり、割り算がどうしても理解できなかったりする。

③理科 特別支援学級で生活単元学習の中で取り扱ってきた。

④社会 特別支援学級で生活単元学習の中で取り扱ってきた。

⑤体育 通常の学級で交流及び共同学習として取り組んだ。

実態：身体を動かすことは得意だが、ルールのあるゲームで戸惑うことが多い。

⑥音楽 通常の学級で交流及び共同学習として取り組んだ。

(2) 心理検査、発達検査から

学校や専門機関で行った心理検査等の結果を参考にする

・田中ビネー知能検査Ⅴの結果（生活年齢9歳10か月、精神年齢7歳3か月 IQ74）

(3) 行動観察から

日常場面の中で周囲の人と違う感じ方やとらえ方をしているか、観察する

・通常の学級の中で友達が話している内容が分からないことがある。

3 指導内容を組織する

(1) 指導の形態

①各教科 ②道徳 ③総合的な学習の時間 ④特別活動 ⑤自立活動 ⑥生活単元学習

(2) 指導内容

①の国語、算数、図工は、小学校の学習指導要領に準ずる。（下学年の内容に替える）

①の理科、社会は、教科等を合わせた指導として生活単元学習で指導を行う。

①の体育、音楽は、通常の学級での交流及び共同学習として取り扱う。

～Bさん（小学校4年）の指導計画～



【学級のこと】

- ・自閉症・情緒障がい特別支援学級（高機能自閉症1名、知的障がいを伴う自閉症2名）がある。

【Bさんのこと】

- ・軽度の知的障がいを有する自閉症である。入学時は通常の学級に在籍していたが、学習の遅れが顕著になり、2年生から特別支援学級に在籍している。
- ・出来事を順序よく話すことが苦手だが、友達との会話には困っていない。
- ・初めての場所や活動に対して強い不安を感じ、不安定になり泣いてしまうこともある。
- ・人数が多い中でのゲームでは、ルールを守れないことがある。

指導の形態と指導体制の工夫

国語、算数、図画工作において、下学年の内容を学習することにしました。昨年まで行った学習内容を踏まえながら、特別支援学級で学習を行います。

Bさんは、身体を動かしたり、音楽を聴いたりすることがとても好きです。また、交流学級における所属意識も強く、“みんなと一緒に勉強したい”という希望をもっているため、体育と音楽は、交流学級での学習を行うことにしました。

	月	火	水	木	金
1	自立活動				
2	国語	算数	国語	算数	国語
3	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	国語	体育
4	国語	生活単元学習	生活単元学習	体育	生活単元学習
5	算数	国語	算数	図画工作	音楽
6	音楽	体育		図画工作	

■ = 交流及び共同学習

□ = 各学科の目標・内容を、
下学年の教科の目標・内容に替えた教科



◆各教科は、下学年の内容を学習する

Bさんは、教科学習の授業を、下学年の内容を特別支援学級で受ける。

特別支援学級で下学年の内容を取り扱う

教科等を合わせて指導する

交流及び共同学習



◆特別支援学級で「自立活動」の授業を受ける

Bさんの課題である「場に応じたあいさつができること」「予定通りに行動できること」について、教育活動全体の中で自立活動の指導を行うこととした。

自立活動

Bさんは、「場に応じたあいさつができること」について、生活や学習の場面での始まりと終わりのあいさつ、物を貸し借りする時、助けてもらった時のお礼などその場に応じた言葉を使えるよう指導を行うことにしました。

また、「予定通りに行動できる」については、授業内の流れを提示し、その流れで行動することを指導しながら、目標を達成できるようにした。

特性に応じた指導計画の見直し手順3

～知的な遅れを伴うCさん（中学校3年）の場合～
（各教科等を知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う
特別支援学校の各教科の目標・内容に替える）



Cさんは、軽度の知的な遅れを伴う中学3年生の生徒です。特別支援学級に在籍しています。本人は「いろいろな人とお話ができるようになりたい」と思っていますが、自分の思いをうまく伝えることができずに人とかかわることをとても苦手としています。2年生の頃から慣れた相手とは自分から話をすることもできるようになってきましたが、必要以上に相手の身体を触って親愛の情を示す様子もあり、嫌がられてしまうこともありました。

Cさんの教育課程は、知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の内容に替えて、教育を行うことにしました。



Cさんの指導計画を次の手順で作成しました



1 学校教育目標を確認する（学校ではどんな子どもを育てようとしているか？）



2 学級教育目標を確認する（学級の教育方針は？）

3 Cさんに学ばせる指導内容（知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科）を確認する

★各教科（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業・家庭、外国語）

★自立活動 ★総合的な学習の時間

★特別活動

知的障がい者である生徒に教育を行う特別支援学校では、3のような指導内容を取り扱っています。



4 教育課程を再編成し、指導の形態を決定する

特別支援学級の状況等も含めながら、教育課程を再編成しました。

★特別支援学級の指導の形態を決定する

実際の時間割の中身をどうするか考えるということですね。



各教科（国語、数学、音楽、美術、保健体育）

作業学習

生活単元学習

自立活動（※全教育活動を通じて指導を行う）

総合的な学習の時間

音楽と保健体育は、交流及び共同学習で、交流学級にて学習を行うことにしました。



～Cさん（中学校3年）の指導計画～



【学級のこと】

- ・知的障がい特別支援学級（3名）、自閉症・情緒障がい特別支援学級（高機能自閉症1名、知的障がいを伴う自閉症6名）がある。

【Cさんのこと】

- ・小学校4年生のころから、特別支援学級に在籍している。
- ・会話が一言で終わってしまうなど、たくさんの言葉を使っのやり取りがあまり得意ではない。
- ・説明が長くなると、意味を理解できずに、反応が遅くなってしまう。
- ・交流学級での活動は楽しみにしているが、自信がなく自分から行動する場面が少ない。

指導の形態と指導体制の工夫

各教科等を知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標・内容に替えて、教育課程を編成しました。

特別支援学級での学習が主で、音楽と保健体育、体育大会や合唱コンクール等の行事、特別活動でCさんが参加できる活動に、交流学級の担任と相談しながら、参加することにしました。

いつも交流している音楽や保健体育でも、内容によって、Cさんの参加が難しい場合については、特別支援学級での活動に替えることもありました。

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導（朝の会、係活動）				
2	音楽	保健体育	生活単元学習	保健体育	国語
3	国語	作業	美術	音楽	作業
4	作業			保健体育	
5	保健体育	国語	数学	国語	数学
6	総合的な学習の時間	数学		美術	生活単元学習

■ = 交流及び共同学習

■ = 特別支援学級での音楽と保健体育の授業

◆知的障がいの特別支援学校の学習指導要領を参考に学習を行う

Cさんは、教科学習等の授業を、特別支援学校の指導を参考に行いました。

〈特別支援学級での学習〉

指導内容	年間時数 (時間)
国語	140
数学	105
音楽	35
美術	105
保健体育	70
日常生活の指導	175
作業	175
生活単元学習	70
総合的な学習の時間	35

〈交流学級での学習〉

指導内容	年間時数 (時間)
保健体育	70
音楽	35

年間総時数 1015 時間

各教科等の時数をCさんの実態に合わせ、このように整理してみました。



◆「自立活動」の学習を行う

Cさんの自立活動の指導は、課題となっている「コミュニケーション」と「人との正しいつきあい方」について、教育活動全体をとして指導を行うことにした。

特性に応じた指導計画の見直し手順4

～知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校に通うDさん（中学部1年生）の場合～



Dさんは特別支援学校に通う重度の知的な遅れを伴う自閉症の中学1年生です。
自分から人にかかわることはほとんどなく、相手からの支援や促しを待っている状態がみられます。個別に準備されているスケジュールに沿って、いつも通りの活動には自分から参加することができます。
言語による働きかけに対して、オウム返しで答えます。トイレに行くことや水を飲みたいということを、持ち歩いている絵カードを差し出すことで伝えることができます。



Dさんの指導計画を次の手順で作成しました



1 学校教育目標を確認する（学校ではどんな子どもを育てようとしているか？）

学校では「社会的、感情的、身体的、知的な発達を促す教育を行うこと」、「自主的、生産的な生活ができるようになること」という大きな柱で教育を行うことが目標となっています。



2 学部の指導の方針と教育課程について

- (1) 中学部の教育方針
 - ・ 中学部では「自分で考えたり、決めたりする経験を通して、自分で表現する力を育てる」ということを重点としています。
- (2) 指導の形態

教育方針に基づいて計画された学部の指導の形態を確認する。

- ・ 中学部では以下のような指導の形態になっています。

教科等を 合わせた 学 習	日常生活の指導	各教科等	音楽
	生活単元学習		保健体育
	作業学習		特別活動
	朝の学習		
	健康づくり		総合的な学習の時間

本校の教育のキーワードは
1. 丈夫な身体をつくる
2. 表現する力を付ける
3. 豊かな心を育む です。



中学部はこの指導内容で教育が行われています。必要に応じて個別指導が行われます。



3 Dさんの実態を把握し、個別に指導をする必要がある内容を選ぶ。

- (1) 個別の教育支援計画から（保護者の願い等）
 - Dさんの小学部までの取組や今年度引き継がれた目標を確認する。
 - ・ 自分から表出できる要求を増やす。
 - ・ 活動の流れを理解して、自分から行動することができる。
- (2) 行動観察から

日常場面の中で周囲の人と違う感じ方やとらえ方をしているか、観察する。

- ・ 人の声がざわついて聞こえるので、行事などでは耳ふさぎをしている様子がある。

Dさんは相手からの指示を待って行動する様子が見られるため、コミュニケーションに関する自立活動の指導を個別指導することにしました。



～Dさん（中学部1年）の指導計画～



【学部のこと】

- ・生徒数は1年生17名、2年生26名、3年生32名で、中学部全体で75名の学部である。
そのうち自閉症を伴う生徒は30名であり、全体の4割である。

【Dさんのこと】

- ・3歳時に自閉症と診断されている。
- ・幼少時から、救急車や飛行機の音が聞こえると、大きな声を出して泣くことがある。
- ・大人からの指示を待っていることが多く、自分から行動できないことがある。
- ・言葉による指示に対し、オウム返しで答える。

時間割の実際

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導（朝の会、健康づくり）				
2	朝の学習				
3	生活単元学習	作業学習	総合的な学習の時間	作業学習	生活単元学習
4					
5	音楽	生活単元学習	日常生活の指導	特別活動	保健体育
6	日常生活の指導	日常生活の指導		日常生活の指導	日常生活の指導

自立活動の個別指導

上記にある時間割の網掛け になっている「朝の学習」では、生徒一人一人のニーズに合わせて小集団をつくり、学習を行っています。Dさんは、この時間の一部（10:20～10:45）を自立活動として、自分から意思表示をする学習を行うことにしました。

Dさんの朝の学習	
10:00	小集団：朝の学習（文字の読み書き、買い物学習等） 個別：自立活動（目標：絵カードで示された活動を理解して、自発的に取り組むことができる）
10:20	
10:45	

2時間目に帯で設定されている「朝の学習」を前半（文字や数の学習）、後半（自立活動）に分けて学習を行いました。

特性に応じた指導計画の見直し手順5

～知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校に通うEさん（高等部2年生）の場合～



Eさんは特別支援学校の男子生徒です。重度の知的な遅れを伴う自閉症の高校2年生です。伝えたい言葉や意思を手の平に文字を書いて伝えたり、カードを使って伝えたりすることができます。伝わらない時には、代替のもの（本やちらしを持ってきて）を使って、伝えることができます。

与えられた課題に集中して取り組むことができ、最後までやり遂げます。係活動のいす上げ当番は、意欲的に役割を果たそうとします。

寄宿舎から歩いて通学しています。

Eさんの指導計画を次の手順で作成しました

1 学校教育目標を確認する（学校ではどんな子どもを育てようとしているか？）

2 学部や寄宿舎での指導の方針と教育課程について

- (1) 高等部の教育方針
 - ・高等部では「一人一人が学校や家庭、地域において、より自立した生活を送るための力を育てる」ということを重点としています。
- (2) 寄宿舎の指導の方針
 - ・「生きていく上で必要な力を高め、よりよい人間関係を築いていく」という方針の下、指導が行われています。
- (3) 指導の形態

学校と連携しながら指導を行います。



寄宿舎指導員

教育方針に基づいて計画された学部の指導の形態を確認する。

- ・高等部では以下のような指導の形態になっている。

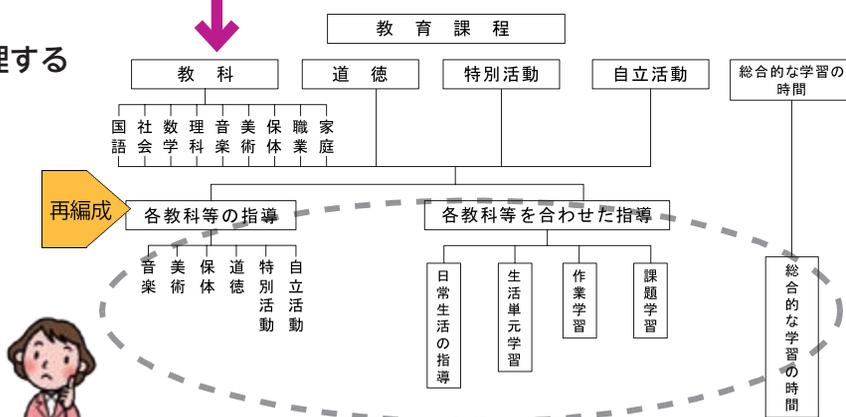
教科等を合わせた学習	日常生活の指導
	生活単元学習
	作業学習
	課題学習

各教科等	音楽
	保健体育
	美術
	道徳
	特別活動
	自立活動
総合的な学習の時間	

3 教育課程の全体構造を整理する

②で明らかになった指導の形態を整理すると、右図の○のようにになりました。

再編成された指導の形態の中で、Eさんが何を学ぶべきかは、個別の教育支援計画や個別の指導計画で明らかにしていきます。



～Eさん（高等部2年）の指導計画～



【学部のこと】

- ・生徒数は1年生29名、2年生19名、3年生19名で、高等部全体で67名の学部である。
そのうち自閉症を伴う生徒は全体の4割である。

【Eさんのこと】

- ・重度の知的な遅れを伴う自閉症の生徒である。ある程度のコミュニケーションはとれ、文字を読むことができる。
- ・高等部2年生から寄宿舎に入舎して生活している。大人との関係が中心で舎生同士のかかわりは少ない。
- ・自分の思いが伝わらない時には大きな声を出すことがある。避難訓練のサイレンで不安定になる。
- ・着替え、洗面、排せつなどの日常生活は自立しており、配膳などの役割活動もできる。

時間割の実際

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導（朝のトレーニング、朝の会）				
2	生活単元学習	課題学習	作業学習	課題学習	課題学習
3		音楽		作業学習	音楽
4	保健体育	保健体育	保健体育		保健体育
5	作業学習	美術	課題学習	総合的な学習の時間	作業学習
6			日常生活の指導	日常生活の指導	

課題学習の個別指導と寄宿舎の取組の連携

Eさんは、上記にある時間割の網掛け になっている「課題学習」で、今年重点目標になっている“時間を確認しながら生活する”という目標への取組の一つとして、時計の読み方を学習することにしました。寄宿舎と連携しながら指導を行いました。

今年目標	自分の腕時計で時間を確認しながら、行動することができる。
------	------------------------------

短期目標	学校での指導	寄宿舎での指導
時計を見て、自分から行動する。	《課題学習》 ・プリントで「何時何分」のデジタル時計を読むことができる 《学校生活全体》 ・時計を見て「朝のトレーニング」に自主的に参加することができる。	・時計を見て主体的に行動する。 ①食事 ②就寝準備 ③清掃 ④散歩の集合

できるようになったことを担任に伝えるようにしています。



心豊かに、健やかに学びたい



こ めせん ことば
子どもの目線にあった言葉かけをしてください。

しんぺん しどう み つ おとな
身近の指導のように身に付いたことは、大人になって
わす
も忘れません。

まな こ おとな
たくさん学んだ子どもたちは、きっといい大人になれます。



きもち つう あいて
「気持ちが通じる相手」がいると、ホッ
とするんだよね。

一人一人の特性を理解することで、子ども
たちが安心して学ぶことにつながります。



つうじょう がっきゅう きも お つ
通常の学級は気持ちが落ち着
かないんだ…。でも、ここ（特別
しえんがっきゅう べんきょう つうじょう
支援学級）で勉強して、通常の
がっきゅう ともだち お
学級の友達に追いつくのかな
…………。



学習するための気持ちの安定や人とのやり取り
などは「自立活動」の指導として設定する必要があります。

また、学習のねらいについて、分かるように伝
えてあげたいです。



★ 研修の御案内 ★

北海道立特別支援教育センターでは、特別支
援教育を推進するために、基礎的、専門的な研
修を実施しています。

研修講座の他に、自主的に来所して行う「マ
イプラン研修」や、必要な研修内容に合わせて
講師を派遣する「研修支援」なども御相談に応
じることができます。

研究・研修専用ダイヤルイン
(011) 612-6328

★ 教育相談の御案内 ★

自閉症のお子さんの相談は、北海道立特
別支援教育センターを御利用ください。

教育相談専用電話

(011) 612-5030

教育相談専用メールアドレス

tokucensoudan@hokkaido-c.ed.jp

一人一人に合った指導計画の作成については、
各教育局、または北海道立特別支援教育センター
へ御相談ください。



平成22年度自閉症に対応した教育課程の編成等についての実践研究

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課

電話 011-204-5774 FAX 011-232-1049

自閉症のある児童生徒の教育に関する相談は 北海道立特別支援教育センター へ
電話 011-612-6211(代表) 教育相談専用 011-612-5030